

科目	論理国語	学年	第2学年	開講	通年	必修	3 単位
----	------	----	------	----	----	----	------

教科書:精選 論理国語(明治書院)

副教材:精選論理国語学習課題ノート(明治書院)、キーワード漢字2700(浜島書店)

新訂総合国語便覧(第一学習社)、3ステップオリジナル問題集 錬成現代文<大学入学共通テスト対策新装版>

1 学習の到達目標

- 1 文章の的確な読解を通して、客観的に理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。
- 2 文学作品を通して、日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、その読解によって、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。
- 3 現代社会において求められる多様な言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。
- 4 生涯にわたり読書に親しむ習慣を身につける。

2 学習計画及び評価方法

- a 知識技能
- b 思考・判断・表現
- c 主体的に学習に取り組む態度

学期	項目	単元	学習内容	学習のねらい	月	考查	評価の観点		
							a	b	c
前期	随想	本を積んだ小舟 -ファール「昆虫記」	・将来の礎となる過去、現在の経験、または現在の礎になっている過去の経験、自分自身をじっくり考えるきっかけを得る。 ・読書を通して多くの知識や理解力、物事への関心を抱かせる。	・筆者の体験と「ファール「昆虫記」」の関連を理解する。 ・筆者が大人になってから得た「昆虫記」の新たな事実を理解する。 ・書物を読むことの意義を見いだす。 ・筆者の経験を道して「目くらましの生きる」ことの意味を考える。	4	中間	○	○	
	小説(一)	山月記	・人物設定、状況設定ともに本格的な虚構作品であり、さまざまな角度から人間のあり方について考えさせる。 ・難解な漢語が多いため、とりつきが困難ではあるが、日本語の言葉の世界の豊かさを、物語としての面白さを感じてもらう。	・語句の意味を正しく理解する。 ・主人公の変身の理由を話の展開に沿ってまとめる。 ・主人公の苦悩が手がかりに人間のあり方について思考を深める。 ・人間が虎になるといふ虚構の意図や効果を考える。	5		○		
	評論(一)	脳の中の古い水路	・論理的な文章への興味、関心の喚起になるように、普段正しいと考えている認識に疑問を投げかける。 ・これから様々な分野に進もうとする高校生たちに問題提起とする。	・タイトルが示しているものを的確に理解させ、そのように表現した意図を把握させる。 ・評論文理解の基礎となる論理の展開を整理し理解させる。 ・「勉強する」意味を自分自身の問題として意識させる。	6			○	○
					7		○	○	
					8		○	○	
					8	期末		○	○
前期 授業評価									
後期	詩	小泉異情 永訣の朝	・室生犀星と宮沢賢治という日本文学史における代表的な詩人の作品を取り上げ、味わう。	・詩の持つリズムとイメージを喚起させる。 ・詩の言葉の持つ個性豊かな表現を味わう。	10	中間	○		
	評論(二)	意味論的旅と越境	・あまり知識のないであろう中南米の国々と、身近であるアメリカ合衆国を題材とした評論文を題材にして、現代社会におけるひとつの問題点を探る。	・現代の社会におけるさまざまなマイノリティーの問題について、その現実を知り、考えるきっかけとする。 ・グローバル社会において、文化や言語の異なる人々とのように共生するかという課題を考えさせる。	11		○	○	○
	小説(二)	ハキリアリ	・各々の登場人物が、ハキリアリの行動や人質たちの朗読とどのように結びついているかを読み解く。	・同時代に生きる人気作家の作品に触れることで、感性を豊かなものにする。 ・この小説で設定されている全体の状況をまとめる。	12		○		○
		パプーシュカ	・小説の細部(比喻、感情、認識の変化など)から、登場人物の感情を読み取る。	・登場人物の言動と感情を、文章の中からの的確に感じ取れるようにする。				○	○
	評論(三)	身体という受動性	・アイデンティティーについて書かれた論理的文章を題材に、高校生という自我の確立からより高い精神的発達段階にある生徒たちに、自分自身について考えてもらう契機とする。	・難解な文章を丁寧に読み解き、道筋をはっきりさせる。 ・引用された詩を読み解き、それに対する筆者の解釈を明確にする。 ・自己のあり方について深く考える姿勢を育てる。	1		○	○	
	小説(三)	こころ	・日本近代小説の代表的な作家である夏目漱石の代表作である「こころ」を題材として、人間について深く考えるきっかけとする。	・登場人物の心情、行動を読み取る。 ・人間のあり方について考えを深める。	2			○	○
					3			○	○
					3	期末			
後期 授業評価									

3 評価の観点

授業の取り組み姿勢、テキストの音読、応答と発問、意見発表の意欲と的確さに、課題の提出や漢字テスト・定期考査の成績を加味し総合的に判断する。